

「パチンコをやめた人はどこに行った？」

「パチンコ」の存在意義

あるリサーチ会社のパチンコ客数減少のデータを見ました。その中の質問項目で「パチンコをやめて、いま何をしているのか」という項目で驚くことがありました。パチンコの存在意義を考えさせられました。（ネットリサーチ会社によるサンプル1000人のデータです。）

人事・労務・教育コンサルタント

藤崎敏郎

パチンコをやめて何をしている？

このアンケートではどの年代も1位がインターネットでした。インターネットを利用したアンケート収集なので当然でしょう。ただ、昨今のパソコンの普及により、インターネットを利用してホームページの閲覧や、自身でブログの更新をする人は増えていると予測できます。

今までパチンコ・パチスロで遊んでいた時間をインターネットで過ごす人はこれからも増加するでしょう。パチンコの客層でサラリーマン層が10年前と比較して減少しているのは、店舗観察で感じるどころです。

多くのサラリーマンがインターネットで時間を費やしているのは間違いないと思われれます。

パチンコをやめて仕事をしています！

このアンケートでは、約20%の人が今までパチンコをしていた時間を仕事に使っているというデータが出ました。おそらく、インターネット環境のない人にアンケートを取ると、この解答が1位になると推測されます。パチンコをやめて仕事一筋に頑張る人が増えているということですね。

企業は厳しい評価制度の仕組みを導入しつつあります。年功序列主義から成果主義の流れは止まりません。サラリーマンはパチンコで消費していた時間を、自身の会社内での生き残りのために仕事をしなければならぬ状況です。また、パチンコをしていた時間を自己研鑽の時間にして、常に能力の向上をしないと会社内に残れない時代に

なっているのです。

仕事をしなければならぬ別の見方として、パチンコをする時間がないほど労働環境が厳しくなったということもあります。企業は正社員数の削減で労務費の削減を続けてきました。この結果、人手不足となり、それを補うために残った社員の業務の負担が過重になっていくのです。また、人手不足を補うために派遣社員やパート・アルバイトで補充をしたとしても、その教育や労務管理に社員は時間を取られて、自分自身の仕事の時間が取れないでいます。だから、毎月の残業時間が100時間を超えてしまっているケースもあるそうです。それでも、社員としての通常の業務が終了しないという声を聞くことがあります。そのような状況が続いて体と心を病んでしまい、病気を退職する社員が昨今は激増している

そうです。サラリーマンも大変に労働環境が厳しくなっているのです。

パチンコをやめて育児・子育て・子供と遊ぶ！

若い育児世代では約20%がパチンコをやめて、育児・子育て・子供と遊ぶことに時間を使うようになったというデータが出ていました。家庭を大事にする選択をしているのです。

ここは世代間の違いを感じるどころです。熟年世代と話しをすることも多いのですが、家庭を顧みず仕事をするタイプが多いのです。当然に、育児など妻の仕事とされているので彼らが育児世代のころは家庭で育児をする時間を取っていません。「仕事一筋で、子供のオムツの交換などしたことがない」という人が多いのです。

世代の男性は家庭的な人が多く、男女とも共同して育児をするタイプが多いのです。パチンコをやめて育児をするという傾向は、これからも大きくなるのは間違いありません。

パチンコをやめて家事をする！

パチンコをやめて家事をするという人が約15%というデータもありました。今まで妻に任せておいた家事を夫もするようになったということでしょう。これは育児をするのと同じような世代の比率が同じように多いです。

ただ、熟年世代でも15%程度あります。パチンコをやめて、家事（炊事、洗濯、掃除など）をする男性の姿はほほえましい感じがします。しかし、熟年世代で家事をするケースでは本来はパチンコで遊びたいが、自由になるお金が少ないので遊べないという状況があると思われれます。

また、熟年世代はリストラ対象となり、無職になることが多い世代です。一端無職になると再就職も難しい状況です。妻がパート勤務で家計を稼いで、夫が家事をしているケースもあるようです。

データからの結論

パチンコをやめた人が何をしているかというデータや飯説はもっと話題になってよいはず。アンケートとい

うとパチンコ店内やパチンコ雑誌でのアンケートばかりです。パチンコをする人からの情報収集だけでは、これらの時代の生き残り策が見つからないのではないのでしょうか。

私の意見ですが、パチンコの競合は何かという他のレジャーでは無いと結論づけてよいと思います。個人個人の生き方や人生観というものだと私は感じています。それを知るには世代間の受けてきた教育や労働環境の変化等を知ることが必要でしょう。つまり、パチンコと競合するのはこのような「時代の潮流」ではないでしょうか。潮流の流れを見極める力が経営者に要求されているようです。

多くのパチンコをする人がやめたきっかけは、お金がかかるということと間違いありません。ただ、個人の生き方の問題でパチンコをやめた人が、再度パチンコをするようになるには現状の短時間に高額がかかるパチンコでは難しいでしょう。私の知っている二人の実例を紹介します。パチンコ以外の時間の使い方成功した事例です。

パチンコをやめて、税理士になった人

私の知人でパチンコ生活を送っていた20歳代の若者がいました。学生時代から毎月パチスロで生活費程度は稼いでいたそうです。そして、就職活動も満足にしないでいて、サラリーマンに

パチンコをやめて人事コンサルタントになった人

もう一人の知人で長い間、パチンコホール企業の管理職として勤務していた者がいました。半分仕事でしたが、毎月20万円程度パチンコで使っていたそうです。こちらは、会社を自己都合退職しました。しばらくはパチンコで時間をつぶしていましたが、子どもが生まれることになり次の仕事を探し始めました。人事労務の専門家の国家資格の社会保険労務士という資格があることを知り、約2年間パチンコをやめて勉強しました。めでたく試験に合格して、人事コンサルタントとして活躍しています。

パチンコの存在意義？

今回のアンケートからはパチンコをやめて幸せになったという状況しか見えてきません。パチンコをやめて仕事を一生懸命にする人、妻の育児・家事を手伝う人、子供と過ごす時間を増や

した人などいずれも優先順位がパチンコをするより高いと言えるものばかりだと感じます。

今年パチンコ経営の再生の年でしょう。6月30日までに、すべてのパチンコホールが生まれ変わって7月1日を迎えることになるはず。その時に、このパチンコの存在意義を企業独自に持っている必要があります。正しい存在意義を見つかるようにして欲しいものです。

パチンコの歴史を振り返り、かつ、多くの見識のある人の意見を聞くことが必要です。当然に全くパチンコをしないような人の意見も取り入れるべきです。昨年から言われている「おおむね5000円で2時間以上遊べる遊技機」という提言を真剣に検討しなければなりません。パチンコホール企業でも「おおむね5000円で2時間以上遊べる遊技方法」の開拓が生き残りのための優先課題となるはず。これが「時代の潮流」でしょう。

私は幼稚園児のときからパチンコをしていました。父が好きだったのでよく一緒に遊びました。自宅には本物のパチンコ機械が置いてありました。当時は手打ちのチューリップタイプの機械でしたが、玉を自分で補給して遊んでいました。なんとおもしろい遊びだろうと感動していました。パチンコが一般庶民の遊びとして再生すること願っております。

▼ふじさき・としろう
大阪市立大学卒業。イトーヨーカドー入社後、関東のパチンコチェーン店にスカウトされる。経営計画室長として、店舗マニュアルの作成・営業指導・社員研修を行う。その後営業担当部長として、全店舗の指導・競合店対策・不振店対策を行う。現在は、社会保険労務士としてパチンコ企業の人事・労務システムの作成、就業規則などの作成を行う。コーチングを生かした社員教育は好評。ご連絡はホームページhttp://www.p-roumu/ または携帯090-6044-3307よりお願いします。